

博物館における中学生と高校生のボランティア活動

多久島 徹

Volunteer activity of the junior and senior high school students in the museum

Toru TAKUSHIMA

はじめに

近年、社会におけるボランティア活動の意義が高まり、様々な活動に参加する人々が増加している。全国の博物館においてもその受け入れ体制は進み、平成20年度日本の博物館総合調査研究報告書によると自然史博物館においては44.9%の館がボランティアの受け入れを行っており、さらにその数は増加している。

当館でのボランティア活動は、一般（18歳以上）の方を対象とした「博物館ボランティアの会」と中学生、高校生を対象とした「中・高校生ボランティアの会」の2つがある。特に、「中・高校生ボランティアの会」は中学生や高校生による年間を通じた活動で、全国の博物館でもこのような例は少なく、当館の特徴的なボランティア活動といえる。

学校教育でもボランティア活動などの体験活動の充実が求められており、鹿児島市社会福祉協議会の平成26年度のボランティア推進校には鹿児島市内の小学校77校、中学校38校、高等学校15校が指定されている。このようなボランティア活動への意識の高まりの中で、ボランティアの受け入れ先として当会はその体制を整え、その活動を充実させていくことが必要である。

ここでは、平成18年度（平成19年1月）に発足し、平成27年度で10年目を迎える「中・高校生ボランティアの会」を更に充実させるために、10年間の活動状況及び平成27年度の具体的な活動をまとめ、今後の運営への一助とする。

1 「中・高校生ボランティアの会」の概要

1.1 目的

当館の中・高校生ボランティアの会は、中学生、高校生が博物館資料の整理や展示活動、教育普及活動等

の博物館の活動に携わることにより郷土の豊かな自然への理解を深めるとともに、相互に触れ合いながら社会貢献を実践することで、社会の一員としての自覚を深めることを目的としている。

1.2 活動期間・活動日

活動期間は1年間であるが、会員の希望により更新することができる。活動日は年間5回の定例会と会員の都合の良い日時（随時活動）である。

(1) 定例会

年間5回、偶数月の第1土曜日14:00～16:00を基本として実施している（表1）。博物館活動の紹介やボランティアの在り方等について研修会を開き、本会の活動を支援し活性化する試みを行っている。

表1. 27年度の定例会

日 時	
5月30日（土）14：00～16：00	第1回定例会
8月1日（土）14：00～16：00	第2回定例会
10月3日（土）14：00～16：00	第3回定例会
12月5日（土）14：00～16：00	第4回定例会
3月5日（土）14：00～16：00	第5回定例会



図1. 定例会での研修

企画展の解説を聞いている様子

(2) 随時活動

本会の主となる活動である。土・日・祝日・学校帰りなど会員が自ら日時を決めて活動する。

1.3 活動内容

- ① 教育普及活動（楽しい実験、科学教室や天文教室等）の支援・補助
- ② 展示物（展示模型や展示パネル等）の製作補助
- ③ 展示解説
- ④ 資料の整理・標本作製及びその収蔵に係わる業務等

定例会では、博物館の仕事について会員の理解を深めるため、上記①～④に係わる様々な内容に取り組んでいるが、随時活動では、教育普及活動の支援・補助が主な活動となっている。平成20年度日本の博物館総合調査研究報告書（日本博物館協会、2009）によると博物館のボランティアの活動内容は「案内等」「付帯活動」（イベントの運営、「友の会」の業務、広報活動など）が多く、「接客補助」を含め、来館者の案内や教育普及活動の支援が多いことが報告されている。

当会の教育普及活動の具体的な活動は、「楽しい実験」の補助として、参加者の支援や実験に使用する材料の作成等である。



図2. 「楽しい実験」参加者への支援



図3. 「楽しい実験」の材料作成

2 会員数の推移と活動状況

2.1 会員数の推移

年度によって変動はあるが、近年は50人以上の会員数となっており、高校生の会員が多い（表2）。

平成27年度の入会者に対するアンケートによると、入会のきっかけは生徒が在籍する学校からの紹介が最も多く、入会の理由としては、「理科や博物館に興味があった」というもののほか、「ボランティア活動を体験してみたかった」という回答も多かった。

表2. 会員数の推移

区分\年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
中学生	(-)	11	12	26	13	13	7	16	4	1
高校生	(-)	49	52	57	28	26	50	63	47	56
合計	35	60	64	83	41	39	57	79	51	57

※(-)は不明

2.2 会員の内訳

平成26、27年度の会員の内訳を示す（表3）。平成27年度は中学生が1人、女子の割合が70%以上ある。高校生や女子の割合が高い傾向は発足当初から続いている。

表3. 平成26、27年度会員内訳

	平成26年度			平成27年度		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
中学1年生	1		1			0
中学2年生	2	2	4			0
中学3年生		2	2		1	1
中学生合計	3	4	7	0	1	1
高校1年生	1	3	4	2	1	3
高校2年生	8	5	13	2	18	20
高校3年生	5	22	27	12	21	33
高校生合計	14	30	44	16	40	56
全体合計	17	34	51	16	41	57
割合〔%〕	33.3	66.7		28.1	71.9	

2.3 定例会

定例会の参加率は、第1回の出席率が高く、回を経るごとに減少する傾向にある（表4）。特に平成25～27年度の3年間はその傾向が顕著になっている。

これは中学3年生と高校3年生が進学や就職に向けて準備をすることが主な理由としてあげられる。中学生3年生と高校3年生が全体に占める割合は、各年度とも多く、平成26年度は57%、平成27年度は60%となっている。また、入会はしたものの、一度も参加しなかった会員や、年度途中で退会する会員もいる。

表4. 定例会の参加状況

	参加率〔%〕				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
19年度	52	32	32	3	20
20年度	81	51	52	50	56
21年度	53	48	29	39	(-)
22年度	37	44	32	27	(-)
23年度	28	33	36	38	(-)
24年度	65	56	49	51	33
25年度	77	53	46	35	34
26年度	35	45	35	20	24
27年度	75	63	35	23	(-)

(-)は不明

2.4 随時活動

平成27年度（12月31日現在）に随時活動を行った会員は20人で全体の37.7%にあたる（表5）。延べ活動人数は34人で最も多く活動した会員の回数は3回であった。月別の活動状況では夏休み期間である7・8月が多く、この傾向は各年度でも見られる（表6）。発足当初は会員の半数が随時活動に取り組んでおり、1人で10回以上も活動している会員もいたが、近年では会員の半数以上が一度も随時活動を行っていない状況が続いている。

表5. 随時活動の活動状況

	会員数 〔人〕	活動者 実数〔人〕	活動者実 数の割合 〔%〕	延べ人数 〔人〕
18年度	35	14	40.0	21
19年度	60	31	51.7	88
20年度	64	32	50.0	52
21年度	83	16	19.3	29
22年度	41	18	43.9	29
23年度	39	18	46.2	37
24年度	57	22	38.6	43
25年度	79	15	19.0	21
26年度	51	5	9.8	12
27年度	57	20	35.1	34

表6. 随時活動の月別活動状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18年度											3	18	21
19年度	7	10	18	5	18	4	6	1	5	4	4	6	88
20年度	12	3	4	6	5	5	7	3	2	1	4		52
21年度	8	2	4	3	9	3							29
22年度		4		10	4	1	6		2	2			29
23年度		3		2	5		10	4	6	4		3	37
24年度	2	8	3	3	9	3	2	6		3	3	1	43
25年度			9	2	6				1			3	21
26年度					6	5			1				12
27年度		4	3	9	11	3	4						34

3 平成27年度の取組

参加者が減少した平成26年度は「楽しい実験」の補助（楽しい実験参加者への支援や使用する材料の作成）や展示パネルの作成補助、清掃等が主な活動であった。これらの活動も多くの意義を持つが、博物館でのボランティアの本質が自己実現あるいは自己学習という点である（布谷，1999）ことを考えると、活動内容を改善する必要がある。平成27年度は展示解説を活動に取り組んだ。展示解説はその前提として行われている研修を通じて、自分自身が学び、また展示解説を行うことで新たな疑問を生じて、それについて学びなおすという作業の楽しさや、展示解説をしながら対話の中で学ぶことの楽しさから行われるといってもよい（布谷，1999）。中学生や高校生が展示解説ができるようになるためには、より多くの研修時間が必要であるため、各定例会で展示解説研修の時間を設定した。

(1) 第1回定例会（5月）

年間計画の説明等、活動内容の確認、バックヤードツアー。

(2) 第2回定例会（8月）

展示解説研修の説明、展示解説研修、プラネタリウム観覧等。

展示解説研修では、担当学芸主事から企画展の解説を受けた。

(3) 第3回定例会（10月）

企画展観覧、展示解説研修等。

展示解説研修では、自ら決めた展示に対する調べ学習を行った。



図4. 解説資料を作成している様子

(4) 他ボランティア団体との交流会（11月）

平成27年11月14日（土）に下関市立しものせき水族館「海響館」解説ボランティア「あくあは一つ」との交流会を行う機会を得た。当会からは高校生4人（女

子)のみの参加となったが、事前の打ち合わせで、会員による展示解説の時間もいただくことができた。

交流会当日は、「あくあは一つ」の参加者は20人(ボランティア18人、職員2人)全員が中高年の方で、交流会の内容は活動報告、「楽しい実験」の体験、館内展示見学であった。

展示解説では十分な研修時間を確保することができなかったこともあり、資料を読みながらの解説であったが、海響館の方々が温かく聞いてくださったおかげで、落ち着いて解説することができた。

交流会後の会員の感想は、「緊張したが、良い経験になった。」「解説のために、知らないことを学ぶ事ができてよかった。」等であった。



図5. 交流会での「楽しい実験」の様子



図6. 高校生による展示解説の様子



図7. 手作りの配付資料

(5) 第4回定例会(12月)

交流会の報告。特に展示解説については、多くの会員から自分たちも解説を聞きたいという声が聞かれた。

4 まとめと今後の課題

平成27年度は、定例会及び随時活動の参加率の増加や活動の活性化を図るため、展示解説に取り組んできた。平成26年度と比較すると、参加率は向上したが、定例会で回を経るごとに参加率が減少していく状況や、随時活動参加者が半数を下回っている状況等、改善されたとは言い難い。展示解説の活動については、会員の意欲的な取り組みは見られたが、来館者に解説できるようなレベルに達することができず、また解説資料の作成だけで終わる会員も多かった。展示解説には展示物の知識だけでなく、プレゼンテーション技能も求められるため、多くの研修時間が必要である。解説資料を作成するだけでも定例会の研修時間や数回の随時活動だけでは足りず、ボランティア活動以外の時間を使って作成しなければならない。平成27年度は「自ら調べる」ことに重点を置き、解説資料作成から始めたが、1年間という限られた活動期間では、当館で準備した解説資料を使って、プレゼンテーションの技能を向上させるという方法も考えられる。

平成26年度の会員の感想では、あまり活動できなかった理由として「時間をとることができなかった」ということが最も多かった。限られた時間でも博物館のボランティア活動に参加したいという中学生や高校生に対して、サポートしていけるように、そして、活動を通して得たものが会員の成長の一助となるように、今後も「中・高校生ボランティアの会」の活性化を図っていきたい。

引用・参考文献

財団法人日本博物館協会(2009)平成20年度日本の博物館総合調査研究報告書:106-107.

布谷知夫(1999)博物館を活動の場とするボランティアの位置付け. 博物館学雑誌, 24(2):19-28.